

黒埼南ふれあい協議会ニュース

第6号

ふれあいかわら版

黒鳥地区心ふれあう 芸能芸術発表会

去る20年12月13日(土)に黒崎市民会館において黒鳥公民館主催の第3回「心ふれあう芸能芸術発表会」が盛大に開催されました。黒鳥地区は昔から郷土芸能が盛んで、娯楽の少なかった時には農閑期の楽しみとして親しまれておりましたが、今日では忘れられていた存在でした。黒鳥在住者並びに出身者の中にはプロ並みの芸達者が何人もいるとの噂がありましたので、自治会及び黒鳥公民館では地域の活性化と親睦を目的に平成18年度から芸能発表会を開催し、3回目の今年は老若男女の出場で大変盛り上がりました。

当日は気の早い観衆が午前中から詰め掛ける中で、19組の出演者は朝からリハーサルを繰り返し練習に精を出していました。

午後1時には観客席も満員に近い状況の中で、江端直樹総代・森一屋公民館長より挨拶を頂いた後、出演1組目の雅楽演奏から始まりました。

この雅楽は威徳寺檀家有志の方が十数年前からコツコツと練習を始め、今では県内外に名声が轟く程の腕前で満員の観衆を魅了する演奏を奏でました。

続いて、黒鳥地区の伝統芸能を引き継いで行くことになる黒埼南小学校3年生以上による「花笠おどり」「なぎなたおどり」が真剣な姿で披露され、終わった後には盛大な拍手が鳴り止まず、演舞した子ども達も大変喜んでいたことが印象に残りました。

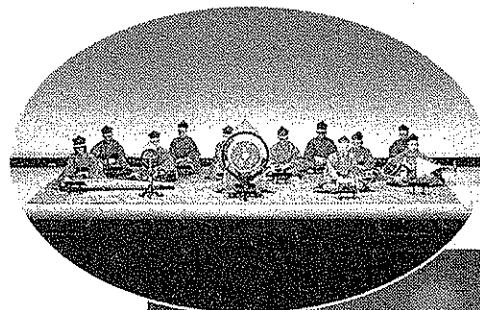
出演3組目の琴くるとりから三味線・親爺バンドや最近流行しているフラダンスや舞踏に親爺バンドに対抗する若者バンドの演奏に、子ども達によるピアノ演奏、最近の健康志向ブームにピッタリのダンベル体操などが15分間隔に次々と出演していき、プロ顔負けの美男美女達の演舞を充分堪能し、満足のいく時間を過ごしました。

更に、芸能発表会の定番と言えるカラオケになると、当地区の歌自慢たちの出番となり、若妻会・体協有志による赤いスイートピー、崖の上のポニョに始まり、本間孝三・保刈弘子さんに続き、本日一番の呼び物でもありました黒鳥自治会役員一同による「大阪すずめ」

では、歌手とバックコーラスの総代以下役員が特大の蝶ネクタイに舞台衣装にバッチリと決めて登場し、万来の拍手の中で歌い切り大変な盛り上がりとなりました。

会場騒然の中で演目も最後となり、黒鳥自治会の肝いりで復活させた「緒立小唄」の出番となりました。

この踊りは緒立温泉が最盛期の頃には盛んに披露されていましたが、今では忘れられていた存在でした。地域の踊りを大切に守り伝えたいとの願いから、有志の努力により見事に復活させたもので、今後は機会ある毎に踊り伝えて行きたいと考えております。この踊りを最後に、来年度の再会を祈念し、芸能芸術発表会を終ることができました。



盛り上がる木場地区芸能音楽祭

去る平成20年11月16日(日)に木場公民館が主催、木場連合自治会、女性部、老寿会、芸能保存会、小学校、保育園、他関係団体が共催して、第20回の芸能音楽祭を盛大に催しました。住民総出演のあらましをご紹介します。

「親睦と融和、健康と潤いのある住みよい地域づくりの推進」というテーマを掲げて芸能音楽祭が開催されました。

午前9時30分に開会の式典が行われ、山際新一郎木場公民館長の開会挨拶、武田利秋木場連合自治会長の共催代表挨拶につづいて、青木太一郎新潟県議会議員・永井武弘新潟市議会議員・田口清黒崎南小学校の来賓祝辞がありました。

芸能音楽祭は午前10時にスタート。小学校児童や保育園児らが、「棒踊り」「ドリームカム・カム・トルー」「花笠おどり」「手踊り」でその先陣を切りました。

続いて、芸能保存会による「棒踊り」「手踊り」の伝統芸能が披露され、老人会・女性部・民謡クラブ・ダンスクラブらも次々と曲目による踊りを披露して会場から盛んな拍手が贈られていました。

曲目は「南の花嫁さん」「北海盆歌」「人生めでた音頭」「おこさ節」「清水湊の女」「よさこいソーラン」「兄弟仁義」「命燃やして」「お江戸チヨチヨ節」「華があつての人生」「好きになったペンギンさん」「月の夜は」「木場音頭」と盛りだくさん。

一方、体育館の外では前日に老寿会、女性部らが刻んだ「とん汁」の具が超大型の鍋に仕込まれ、火が入れられてお昼を目指しての煮込みが行われました。体育館の内と外での一大イベントです。

午前の部の終了で、体育館は大食堂に変身、木場の住民上げての会食は圧巻そのものといった様子です。超大型の鍋の「とん汁」は瞬く間に出演者や見学者の胃袋に消えていきました。

昼休みの時間には、飛び入りのカラオケショーと特別出演による歌手愛一二三さんの歌謡ショーで一段と盛り上がります。

午後の部はこぶし会のメンバーによる大正琴の演奏(ふるさと、高校3年生、故郷)でスタート。木場小唄の会のメンバーも加わって、一段と賑やかに踊りが進んでいきます。曲目も「黒崎情歌」「二人の大漁節」「ハメハメ大王」「浜おけさ」「三だせ音頭」「これから音頭」「相川音頭」「佐渡おけさ」「よさこいソーラン」「アロハえだまめ」「大東京音頭」「黒田節」「芝天おどり」「一週間に十日来い」「鳥取砂丘」「木場小唄」と多彩に踊りを展開しました。

ことに圧巻は、永井ムツさんと土田睦美さんの息のあった一糸乱れることのない熟達した踊り「浪花恋しぐれ」は会場からひとときわ注目を浴びていました。また、中には出演者が会場フロアに降りて、あめ玉、お菓子、五円(御縁)玉の縁起物などのサービスをばらまいて歓声と笑いに包まれる芸がありました。

このようにして、芸能音楽祭は盛会裡に終了し、終日楽しまれた多くの人々は満足したご様子で、とき既に薄暗くなった夕刻の帰路を急いでおりました。



去る平成20年12月24日(水)に新潟大野ライオンズクラブの会員が黒崎地区8保育園へのサンタの社会奉仕活動を行いました。黒崎南小学校区では板井、木場、黒鳥の各保育園へサンタさんが訪問しました。

板井、木場、黒鳥の各保育園の遊戯室にはクリスマスツリーが飾られて、クリスマスムード満点。子ども達のプログラムが進行する中、突然、鈴の音とともにサンタさんが登場します。「サンタさんだ!」と喜ぶ子ども達、サンタさんから握手してもらって大喜びの子ども達です。

さらにサンタさんは子ども達の難しい質問に答えたり、子ども達の踊りに参加したりで大いに盛り上がったところで、こんどはおみやげを配ったりで、サンタさんは大

忙しでした。サンタさんは今年も子ども達の夢を育ててくれました。

